

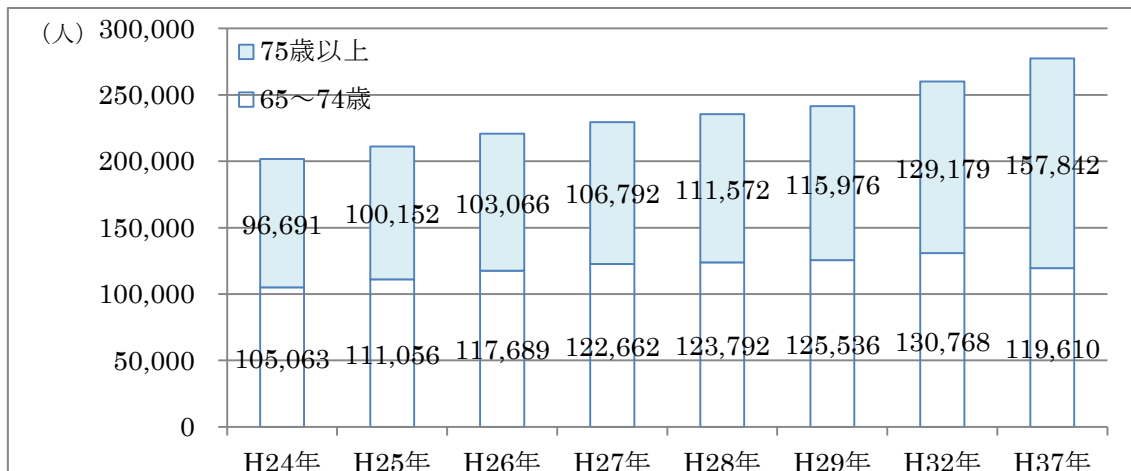
平成 27 年度仙台市認知症対策事業の実績について

仙台市概況

(1) 仙台市の人口（平成 28 年 3 月末日現在 住民基本台帳人口）

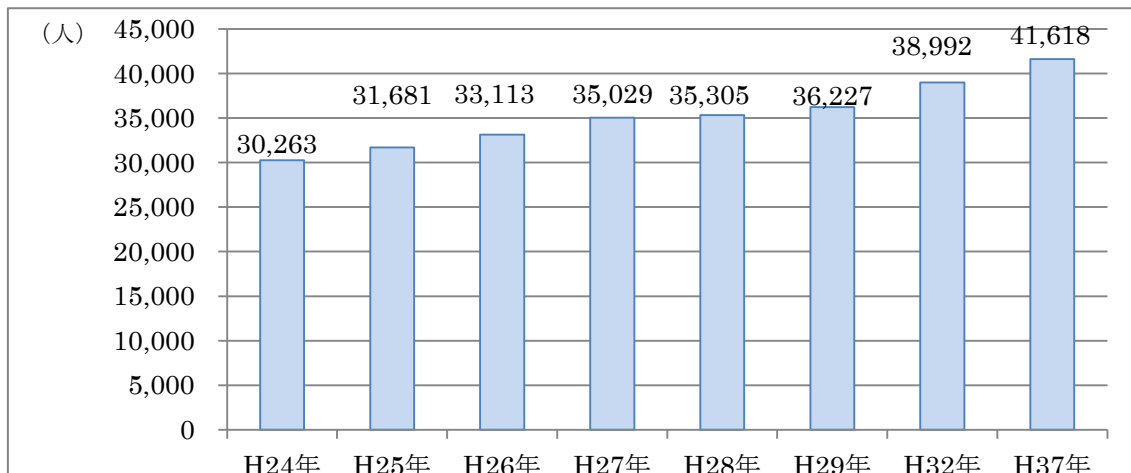
総人口	1,053,304 人	—
うち 65 歳以上	233,525 人	(22.17%)
うち 15～64 歳	683,321 人	(64.87%)
うち 15 歳未満	136,458 人	(12.96%)

(2) 65 歳以上高齢者の現状と推計



平成 27 年度までは実績（各年 10 月 1 日）、平成 28 年以降は推計値

(3) 認知症高齢者の推計



第 1 号被保険者数の推計を基に、厚生労働省の研究班の調査による認知症高齢者の割合（15%）を用いて推計

新オレンジプラン

認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン) 資料1	
～認知症高齢者等にやさしい地域づくりに向けて～の概要	
<ul style="list-style-type: none">・ 高齢者の約4人に1人が認知症の人又はその予備群。高齢化の進展に伴い、認知症の人はさらに増加 2012(平成24)年 462万人(約7人に1人) ⇒ (新) 2025(平成37)年 約700万人(約5人に1人)・ 認知症の人を単に支えられる側と考えるのではなく、認知症の人が認知症とともによりよく生きていくことができるような環境整備が必要。	
新オレンジプランの基本的考え方	
認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で自分らしく暮らし続けることができる社会の実現を目指す。	
<ul style="list-style-type: none">・ 厚生労働省が関係府省庁(内閣官房、内閣府、警察庁、金融庁、消費者庁、総務省、法務省、文部科学省、農林水産省、経済産業省、国土交通省)と共同して策定・ 新プランの対象期間は団塊の世代が75歳以上となる2025(平成37)年だが、数値目標は介護保険に合わせて2017(平成29)年度末等・ 策定に当たり認知症の人やその家族など様々な関係者から幅広く意見を聴取	
七 つ の 柱	① 認知症への理解を深めるための普及・啓発の推進
	② 認知症の容態に応じた適時・適切な医療・介護等の提供
	③ 若年性認知症施策の強化
	④ 認知症の人の介護者への支援
	⑤ 認知症の人を含む高齢者にやさしい地域づくりの推進
	⑥ 認知症の予防法、診断法、治療法、リハビリテーションモデル、介護モデル等の研究開発及びその成果の普及の推進
	⑦ 認知症の人やその家族の視点の重視
1	

仙台市の認知症施策の柱

1 普及啓発

認知症サポーター養成講座の開催

認知症をテーマとした介護予防教室の開催

2 早期診断・早期対応の促進

認知症地域医療支援事業(かかりつけ医、医療従事者向け研修等の開催)

認知症初期集中支援推進事業

3 認知症の人とその介護家族支援

もの忘れ電話相談・介護講座・相談会の開催

認知症地域資源マップ等作成・認知症ケアパス等作成

4 認知症介護の質の向上

認知症介護研修の開催

5 認知症施策の検討

仙台市認知症対策推進会議の開催

6 認知症疾患医療センターの運営

認知症疾患医療センター設置運営

1 認知症への理解を深めるための普及・啓発の推進

①認知症サポーターの養成

認知症に関する正しい知識と理解を持って、地域や職域で認知症の人やその家族を手助けする認知症サポーターの養成を進める。【仙台市健康福祉事業団に事務局業務委託】

[新オレンジプラン目標] (全国) サポーター数 (累計) 平成 29 年末 800 万人

(近年の養成動向を踏まえ平成 29 年度末 600 万人の目標を上方修正)

→人口比率から算出した場合 仙台市 (累計) 平成 29 年度末 6.6 万人

平成 27 年度実績

宮城県警へのはたらきかけにより、市内 5 署において講座を開催し、延べ 247 名が受講。また、市内百貨店へのはたらきかけにより、仙台三越の新規採用従業員向けに 1 回 (13 名受講)、藤崎の従業員向け研修として 2 回 (62 名受講) 実施した。小中学校校長及び PTA 会長あてに開催案内通知を送付し、下記の学校にて講座を実施した。市役所職員向けとしては、新規採用職員、保健福祉行政職員等計 372 名が受講。

以上の取組みを含め、27 年度は過去最多の 10,689 名が受講した。

<平成 27 年度 開催者内訳>

開催者	回数	参加人数
企業・団体・事業所	144	4,147
学校※・行政・児童館	40	3,960
地域包括支援センター	46	1,012
老人クラブ・町内会	22	513
グループ・サークル・社会学級・PTA	9	240
民生委児童委員・地区社協	7	181
市民センター・老人福祉センター	3	88
事業団	7	548
計	278	10,689

※学校のうち小中学校の詳細	参加人数
仙台市立岩切小学校 4 年生	194
仙台市立柳生小学校 4 年生・教員	113
仙台市立住吉台小学校 4 年生	70
仙台市立柊江小学校 5 年生	33
仙台市立幸町小学校 5 年生	53
仙台市立幸町中学校 2 年生	176
仙台市立幸町南小学校 6 年生	63
仙台市立五橋中学・保護者・地域住民	16
仙台市立小松島小学校 4 年生・教員	85
仙台市立七郷中学校 3 年生・教員	160
仙台市立福室小学校 4 年生	113
仙台市立仙台高等学校 2 年生	280
計	1,356

<認知症サポーター養成人数推移>

(人)	H20 年	H21 年	H22 年	H23 年	H24 年	H25 年	H26 年	H27 年
養成人数	3,503	3,650	6,407	3,763	5,829	6,306	7,840	10,689
前年比	—	104.2%	175.5%	58.7%	154.9%	108.2%	124.3%	136.3%
累計人数	3,503	7,153	13,560	17,323	23,152	29,458	37,298	47,987

②認知症サポーター養成講座を実施するキャラバン・メイトの養成

平成 27 年度実績

(ア) キャラバン・メイト養成研修

国の標準カリキュラムに基づき、認知症サポーター養成講座の企画・立案及び講師となるキャラバン・メイトを養成。

【日時】平成 27 年 8 月 20 日（木）

【修了者】60 名

(イ) キャラバン・メイト フォローアップ研修

キャラバン・メイトを対象として、認知症サポーター養成講座を開催していく上での知識や技術等のスキルアップを図るとともに、認知症当事者の視点に立ち認知症当事者の思いを受講者に伝えることのできるキャラバン・メイトの養成を目指すことを目的としてフォローアップ研修を実施。

【日時】平成 28 年 3 月 17 日（木）

【参加者】68 名（包括職員、介護施設職員、認知症介護指導者ほか）

【講義】「認知症をもう一度考える ～認知症の最新事情～」

総合南東北病院 神経内科医長（認知症サポート医） 佐藤滋氏

【講演】「認知症とともに生きる ～認知症当事者のお話～」

おれんじドア実行委員会 代表 丹野智文氏

【グループワーク】「パートナーとして自分ができることは何か」

＜キャラバン・メイト養成人数推移＞

（人）	H22 年	H23 年	H24 年	H25 年	H26 年	H27 年
養成人数	42	58	60	48	45	60
累計人数	306	364	424	472	517	577

③認知症をテーマとした介護予防教室の実施

市内 50 か所の地域包括支援センターで、地域住民や各種団体を対象として実施している介護予防教室において、認知症をテーマとして取り上げている。

平成 27 年度実績

<介護予防教室の回数と参加人数>

(平成 27 年度)

内容	開催回数	参加人数	(うち男性数)	(うち女性数)
認知症	152	2,015	451	1,564
口腔	184	1,493	267	1,226
栄養	106	1,538	279	1,259
閉じこもり	310	827	140	687
うつ	68	462	73	389
運動	674	11,171	1,843	9,328
合計	983	17,506	3,053	14,453

(参考：平成 26 年度)

内容	開催回数	参加人数	(うち男性数)	(うち女性数)
認知症	154	1,923	402	1,521
口腔	158	806	150	656
栄養	108	1,642	283	1,359
閉じこもり	221	367	47	320
うつ	77	253	37	216
運動	654	11,714	2,069	9,645
合計	923	16,705	2,989	13,717

2 認知症の容態に応じた適時・適切な医療・介護等の提供

①早期診断・早期対応のための体制整備～認知症サポート医の養成

かかりつけ医の認知症対応力を向上させるための研修講師や、かかりつけ医の認知症診断等に関する相談役等の役割を担う認知症サポート医の養成を進める。

[新オレンジプラン目標] (全国) 認知症サポート医数 (累計) 平成 29 年末 5,000 人
(一般診療所 20 か所に対して 1 人配置という基本的考え方)
→仙台市の場合一般診療所数 877 か所 (平成 26 年 10 月 1 日現在) なので 43.9 人

平成 27 年度実績

(ア) 認知症サポート医養成研修

4 名が認知症サポート医養成研修を修了された。(これまでに 20 名が仙台市の認知症サポート医となられた。)

(人)	H17～24 年	H25 年	H26 年	H27 年
養成人数	11	1	4	4
累計人数	11	12	16	20

(イ) 認知症サポート医フォローアップ研修

認知症サポート医が、認知症の診断・治療・ケア等に関する研修等を通じて、地域における認知症の人への支援体制の充実・強化を図ること、また、本研修の機会を活用し、地域における認知症サポート医等の連携強化を図ることを目的として実施。(宮城県・仙台市共催)

【日時】平成 27 年 12 月 8 日 (火)

【会場】宮城県庁

【講義】「新オレンジプランと認知症サポート医の役割について」

東京都健康長寿医療センター研究所 栗田主一 研究部長

【受講者】認知症サポート医 (仙台市 8 名、宮城県 17 名)

(人)	H26 年	H27 年
受講者数	仙台市サポート医 8 名 宮城県サポート医 9 名	仙台市サポート医 8 名 宮城県サポート医 17 名

②早期診断・早期対応のための体制整備～かかりつけ医等の対応力向上

【仙台市医師会へ業務委託】

(ア)かかりつけ医認知症対応力向上研修

高齢者が日頃より受診する診療所等のかかりつけ医に対し、適切な認知症診療の知識・技術や認知症の人本人とその家族を支える知識と方法を習得するための研修。

平成 27 年度実績

国の標準的なカリキュラムに基づく、かかりつけ医として必要で適切な認知症診療の知識・技術などの修得に資する内容で実施し、医師に対し修了証書を交付。

【日時】平成 28 年 1 月 16 日（土）

【会場】宮城県医師会館

【講師】認知症サポート医 長谷部誠先生、伊藤文晃先生

【受講者】医師、歯科医師、薬剤師 計 49 名

※受講対象を医師のほか、歯科医師、薬剤師に拡大して実施した。

(人)	H18～22 年	H27 年
かかりつけ医修了者人数	212	29
累計人数	212	241

(イ)かかりつけ医認知症対応力向上のための講座

かかりつけ医に対し、認知症治療の最新の知識・技術や、認知症の人本人とその家族を支える実践的な知識と方法を習得するための研修。

平成 27 年度実績

認知症治療の最新の知識・技術や、認知症の人本人とその家族を支える実践的な知識と方法などの修得に資する内容として、「日常診療に役立つ認知症対応力向上講座」を実施。

【日時】平成 27 年 12 月 11 日（金）

【会場】仙台市医師会館

【講師】認知症サポート医 山崎英樹先生

【受講者】医師、歯科医師、薬剤師 32 名

※受講対象を医師のほか、歯科医師、薬剤師に拡大して実施した。

(人)	H26 年	H27 年
受講者数	35	32

③早期診断・早期対応のための体制整備～認知症疾患医療センターの整備

認知症疾患に関する鑑別診断とその初期対応、専門医療相談等を実施するとともに、地域保健医療・介護関係者への研修等を行う認知症疾患医療センターを整備する。

[新オレンジプラン目標] (全国) 認知症疾患医療センター整備数 平成 29 年度末
約 500 か所 (二次医療圏域に 1 か所以上、高齢者人口 6 万人に 1 か所程度)
→仙台市の場合高齢者人口 23 万人 (平成 27 年 3 月末日現在) : 3.9 か所

平成 27 年度末現在

二次医療圏	指定	類型	医療機関名	指定日
仙台	仙台市	地域型	仙台西多賀病院	平成 27 年 9 月 1 日
	仙台市	診療所型	いずみの杜診療所	平成 26 年 9 月 1 日
	宮城県	診療所型	坂総合クリニック	平成 27 年 8 月 1 日
石巻・登米・ 気仙沼	宮城県	地域型	三峰病院	平成 23 年 6 月 1 日
	宮城県	地域型	こだまホスピタル	平成 25 年 9 月 1 日
大崎・栗原	宮城県	地域型	こころのホスピタル・古川グリーンヒルズ	平成 28 年 3 月 1 日
	宮城県	地域型	旭山病院	平成 28 年 3 月 1 日
仙南	宮城県	地域型	仙南サナトリウム	平成 26 年 9 月 1 日

※平成 28 年度、仙台圏で宮城県は 1 機関、仙台市は 2 機関を新たに整備予定。

【資料 1 - ①】参照

④早期診断・早期対応のための体制整備～認知症初期集中支援チームの設置

早期に認知症の鑑別診断が行われ、速やかに適切な医療・介護等が受け入れられる初期の対応体制が構築されるよう、認知症初期集中支援チームを設置し、複数の専門職により認知症が疑われる人又は認知症の人やその家族を訪問し、観察・評価を行った上で家族支援などの初期の支援を包括的・集中的に行い、かかりつけ医と連携しながら認知症に対する適切な治療に繋げ、自立生活のサポートを行う。

[新オレンジプラン目標] 認知症初期集中支援チーム設置を平成 30 年度以降すべての市町村で実施

実施経緯

平成 25 年度	モデル事業実施 3 か所の地域包括支援センターエリアを対象に 1 チームで実施
平成 26 年度	平成 25 年度と同様に実施
平成 27 年度	青葉区・宮城野区・泉区エリアで 32 か所の地域包括支援センターを対象に、本庁チームといずみの杜診療所チームの 2 チームで実施

⑤身体合併症等への適切な対応～病院勤務の医療従事者の対応力向上

病院勤務の医師、看護師等の医療従事者に対し、認知症の人や家族を支えるために必要な基本知識や、医療と介護の連携の重要性、認知症ケアの原則等の知識について修得するための研修。

平成 27 年度実績

国の標準的なカリキュラムに基づく、病院勤務の医療従事者として必要な認知症ケアの原則等の知識の修得に資する内容で実施し、研修修了者に対し修了証書を交付。

【日時】平成 28 年 1 月 26 日（火）

【会場】仙台徳洲会病院

【講師】認知症サポート医 山下元康先生

【受講者】仙台徳洲会病院に勤務する医師、看護師、薬剤師等 104 名

(人)	H26 年	H27 年
受講者数	46	104
累計数	46	150

⑥認知症の人の生活を支える介護の提供～介護サービス基盤の整備

認知症の人が、小規模多機能型居宅介護や定期巡回・随時対応型訪問介護看護などの訪問・通所系サービス、認知症対応型共同生活介護や特定施設入居者生活介護などの居宅サービス等を利用し、様々な形で介護サービスと関わりながら生活していくに当たって、多様な介護サービス基盤の整備を進めていく。

平成 27 年度実績

第 6 期仙台市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（平成 27 年度～平成 29 年度）に基づき、介護サービス基盤の整備を推進。

	第 6 期 整備目標数	H27 年度 選定数	総定員数 (H28.4.1 現在)
特別養護老人ホーム	700 人分	479 人分	4,249 人分
介護老人保健施設	360 人分	300 人分	3,380 人分
認知症対応型共同生活介護	360 人分	202 人分	1,835 人分
小規模多機能型居宅介護	12 事業所	4 事業所	38 事業所
特定施設入居者生活介護	360 人分	222 人分	2,351 人分

⑦認知症の人の生活を支える介護の提供～良質な介護を担う人材の確保

高齢者介護実務者及びその指導的立場にある者に対し、認知症高齢者の介護に関する基礎的及び実践的な研修を実施すること、また、認知症介護を提供する事業所を管理する立場にある者等に対し、適切なサービスの提供に関する知識等を修得させるための研修を実施することにより、認知症介護技術の向上を図り、認知症介護の専門職員を養成し、もって認知症高齢者に対する介護サービスの充実を図ることを目的とする。

【認知症介護研究・研修仙台センター、仙台市健康福祉事業団、宮城県社会福祉協議会へ委託】

[新オレンジプラン目標] (全国) 認知症介護指導者養成研修受講者数 (累計)
平成 29 年度末 2,200 人 (中学校区 (11,000) 5 つ当たり 1 人が受講という考え方)
→仙台市の中学校区は 63、中学校区を基本にした地域包括支援センターは 50 であり、算出すると 10～12.6 人が目標となる

平成 27 年度実績

研修名	内容	H27 年度受講者数
認知症介護指導者養成研修	現場経験おおむね 10 年以上の者が研修の企画立案・講師役等となるための研修	1 名 (本市から推薦した者が受講) (H27 末累計 34 名)
認知症介護指導者フォローアップ研修	認知症介護指導者養成研修終了後 1 年以上を経ている者向けの研修	1 名 (本市から推薦した者が受講)
認知症介護基礎研修 (モデル研修)	新任の介護職員等が認知症介護に最低限必要な知識・技能を修得できる研修	51 名 (年 1 回実施)
認知症介護実践者研修	現場経験おおむね 2 年以上の者が認知症介護の理念、知識及び技術を修得するための研修	261 名 (年 4 回実施)
認知症介護実践リーダー研修	現場経験おおむね 5 年以上の者が事業所内のケアチームの指導者役となるための研修	33 名 (年 1 回実施)
認知症対応型サービス事業開設者研修	指定小規模多機能型居宅介護事業所又は指定認知症対応型共同生活介護事業所の代表者に対する研修	4 名 (年 1 回実施)
認知症対応型サービス事業管理者研修	指定認知症対応型通所介護事業所等の管理者又は管理者になる予定の者に対する研修	58 名 (年 2 回実施)
小規模多機能型サービス等計画作成担当者研修	小規模多機能型居宅介護事業所の計画作成担当者又は予定の者に対する研修	21 名 (年 2 回実施)

【資料 1 - ②】 参照

⑧医療・介護等の有機的な連携の推進～認知症ケアパスの作成

地域ごとに医療・介護等が適切に連携することを確保するため、認知症の容態に応じた適切なサービス提供の流れ（認知症ケアパス）を確立する。

平成 27 年度実績

仙台市版認知症ケアパスについて作成ワーキンググループを立ち上げ。（認知症の人と家族の会、東北福祉大学、地域包括支援センター、認知症疾患医療センター、区役所からメンバーを選出し、また、認知症当事者として丹野智文さんに参加いただいた。）計 4 回のワーキングを実施し、ケアパスを作成。2,000 部を関係機関へ配布した。

⑨医療・介護等の有機的な連携の推進～認知症地域支援推進員の配置

認知症の容態の変化に応じた適切なサービスが提供されるよう、医療機関や介護サービス及び地域の支援機関の連携を図るための支援や、認知症の人やその家族を支援する相談業務等を行う。

[新オレンジプラン目標] 認知症地域支援推進員数 平成 30 年度以降すべての市町村に配置

平成 27 年度実績

仙台市・宮城県合同で認知症地域支援推進員研修を実施。

【日時】平成 27 年 9 月 29 日（火）、平成 28 年 3 月 8 日（火） 全 2 回

【協力機関】認知症介護研究・研修仙台センター

【修了者】包括職員 38 名、区職員 2 名

< 認知症地域支援推進員研修受講者推移 >

(人)	H26 年	H27 年
本庁・区役所	1	2
包括	27	38

※これにより、市内全 50 地域包括支援センターに認知症地域支援推進員を配置

3 認知症の人の介護者への支援

①認知症の人の介護者の負担軽減～認知症初期集中支援チームによる対応

早期に認知症の鑑別診断が行われ、速やかに適切な医療・介護等が受け入れられるよう、認知症初期集中支援チームを設置し、認知症が疑われる人又は認知症の人やその家族を訪問し、観察・評価を行った上で家族支援などの初期の支援を実施。（再掲）

②認知症の人の介護者の負担軽減～認知症カフェの設置推進

認知症の人やその家族が、地域の人や専門家と相互に情報を共有し、お互いを理解し合う認知症カフェ等の設置を推進する。

[新オレンジプラン目標] 認知症カフェ等の設置 平成 30 年度以降、認知症地域支援推進員等の企画により地域の実情に応じ実施

平成 27 年度実績

認知症カフェ等を開催する団体と情報交換会を 3 回実施し、認知症カフェについての講義、意見交換を実施。これによって認知症カフェ・家族交流会の分類を整理した上で開催情報を一覧にまとめ、市ホームページ上で公開。

- 【情報交換会】 第 1 回目 平成 27 年 7 月 8 日（水） 27 名参加
第 2 回目 平成 27 年 9 月 2 日（水） 83 名参加
第 3 回目 平成 27 年 10 月 2 日（金） 26 名参加
【市 HP で開催情報一覧公開】 平成 27 年 12 月 28 日（月）から
【資料 1 - ③】 参照

③認知症の人の介護者の負担軽減～介護者たる家族等への支援

介護者の精神的身体的負担を軽減するための支援を行う。

【認知症の人と家族の会へ業務委託】 もの忘れ電話相談、介護講座

【区役所】 家族懇談会

【包括へ委託】 家族交流会（家族交流会を設置していない地域包括支援センターに対する新規立上げ支援として業務を委託。H24～27 年実施。）

実績推移

		H25 年度	H26 年度	H27 年度
もの忘れ電話相談	相談件数	229 件	273 件	199 件
介護講座	参加人数（実施回数）	110 名（10 回）	108 名（10 回）	99 名（10 回）
家族懇談会	参加人数（回数）	334 名（39 回）	345 名（40 回）	296 名（37 回）
家族交流会	参加人数（実施包括）	270 名（5 包括）	80 名（3 包括）	33 名（2 包括）

④認知症地域資源マップ等作成

認知症に対応する医療・保健・介護の専門職や「地域資源」をネットワーク化し、地域のマンパワーを活用して相互に連携し有効な支援を行う体制構築を図る。地域包括支援センターへ2年間の業務委託により実施。

平成27年度実績

岩切・六郷地域包括支援センターに26、27年度委託し、マップ等を作成。西中田地域包括支援センターには27、28年度委託。（これまでに累計10センターへ業務委託を行った。）

【資料1 - ④】参照

4 認知症の人を含む高齢者にやさしい地域づくりの推進

①生活の支援～食の自立支援サービス

要介護・要支援認定者または二次予防事業対象者等で、低栄養状態で栄養改善の必要があり、かつ、ひとり暮らし等で食事の用意が困難な方に、栄養バランスのとれた食事を届け、安否確認を行うことにより、高齢者の自立を促し、在宅生活の質の向上を図ることを目的とする。

平成 27 年度実績（見込）

利用者数 1,775 人、延べ配食数 313,807 食

②生活の支援～寝具洗濯サービス

おおむね 65 歳以上のひとり暮らしまたは寝たきりの方及び重度身体障害者に対して、寝具を預かり丸洗いをして返却し、衛生的で健康な生活を支援する。

平成 27 年度実績（見込）

登録者数 51 人、延べ件数 87 件

③生活しやすい環境（ハード面）の整備～住宅改造費助成

身体機能低下等のために居宅の改造が必要な場合に、補助対象工事費の 4 分の 3 まで（60 万円を限度）を補助する。

対象者：次の全てに該当する者 ①65 歳以上のみ世帯②所得税非課税世帯③要支援以上の認定を受け、身体機能低下等により日常生活に支障があり、居宅の改造が必要な者

平成 27 年度実績（見込）

17 件

④安全確保～地域での見守り体制の整備

独居高齢者の安全確認や行方不明者の早期発見・保護を含め、地域での見守り体制を整備促進する。

平成 27 年度実績

（ア）SOS ネットワークシステム

宮城県警との連携について調整を進めた。

（イ）緊急通報システム機器の貸し出し

65 歳以上の在宅ひとり暮らし高齢者（日中ひとり暮らしを含む）等に対し、緊急時ボタンひとつで仙台市が委託する警備会社に通報する機器を貸与。

（27 年度実績見込）設置台数 3,341 台、うち新規設置台数 829 台

⑤安全確保～高齢者虐待防止ネットワークの構築

地域包括支援センターを中心として、地域の住民・保健医療福祉関係機関等が、研修や事例によるグループ討議等を通じて、高齢者虐待防止について関心を高め、そのネットワークによって日常の見守り・声かけ・支援などが有機的に行われるような地域づくりを目指す。

平成 27 年度実績

実施地域包括支援センター数 5 か所（延べ実施センター数 43 か所）

⑥安全確保～権利擁護（成年後見制度の利用支援）

判断能力が不十分な高齢者等を保護・支援するために、後見人等を選任する必要があるとき、家庭裁判所への申立てを行う親族がいないなどの理由で制度利用が困難な者について、市長が後見等開始の審判の請求を行う。また、市長が後見等開始の審判の請求を行った場合に、一定の条件により成年後見人等報酬を助成する。

平成 27 年度実績（見込）

市長申立て 28 件、 報酬助成 15 件

5 認知症の人やその家族の視点の重視

①初期段階の認知症の人のニーズ把握や生きがい支援～認知症カフェ等推進

初期段階の認知症の人を単に支えられる側と考えるのではなく、認知症とともによりよく生きていただけるよう環境整備を行っていく観点から、認知症の人やその家族が、地域の人や専門家と相互に情報を共有し、お互いを理解し合う認知症カフェ等の設置を推進する。(再掲)

②認知症の人の視点に立って認知症への社会の理解を深める取組み

平成 27 年度実績

認知症当事者 丹野智文氏に協力いただき、認知症サポーター養成講座を受講する方向けのメッセージビデオを作成。(一般市民向け・小中学性向けバージョン) You Tube にアップロードし誰でも視聴できるよう配信しているほか、市内地域包括支援センター宛てに DVD 化し配布。

【資料 1 - ⑤】参照

③認知症施策の企画・立案や評価への認知症の人やその家族の参画

平成 27 年度実績

仙台市認知症対策推進会議に、認知症当事者の丹野智文氏を委員として参加いただいているほか、キャラバン・メイトフォローアップ研修においては講演いただいた。

6 その他

認知症対策推進に関する連携協定書 (学校法人梅檀学園東北福祉大学)

認知症の方とその家族を地域で支え合うまちづくり連携協定書 (エーザイ株)